

新編 三野町史

路の開通をうけてのものか、昭和六十二年の町議会では阿波連絡道について、トンネル実現を主目標に据えた運動から発想を転換し、町道標の休場線を経由して香川県仲南町塩入に通じるルートを進捗してはどうか、という案が出された。

(三) 角の浦橋の架け替え

吉野川に架かる角の浦潜水橋は「沈む橋」としてよく知られている。三野町にとっては国道や鉄道のある吉野川南岸と結ぶ二本の橋の一つで、JR徳島線三加茂駅にも直接通じる大事な交通路である。昭和四十年三月にそれまでの渡し船(角浦渡し)にかわって架けられた。潜水橋は潜り橋、沈下橋、冠水橋などと呼ばれる。堤外地の低水路部分に架けられる。吉野川は川幅が広く、堤内地(堤防で守られる部分。集落や農地などがある)から堤防を乗り越えて橋(潜水橋)を架けるには大規模な工事になり多額の費用がかかるので、通常時の川幅をまたぐ程度の架橋で済む潜水橋が多かった。しかし潜水橋は川が増水すると水の中に入ってしまうので水が引くまで通れなくなること、また増水時の水流を妨げないようにするため幅が狭く、欄干や道路灯が付けられないなどの不便さがあり、また転落事故も発生しやすい。角の浦潜水橋は三野町太刀野と三加茂町中庄を結ぶ生活に密着した橋だが、自動車などの転落事故が起きたり台風などの際の通行止めが多いことから安全な潜水橋への架け替えが要望され、期成同盟会も結成された。

平成十一年(一九九九)に長年の要望が実り、角の浦橋の潜水橋への架け替えが決まり、同年十一月十一日に三加茂町で起工式が行われた。新しい橋は潜水橋の三〇〇以下流に建設される。長さ四四五メートル、幅二・五メートルで車道二車線と両側に歩道を持つ、潜水橋と比べ格段に規模の大きな橋である。潜水橋実現には、橋の取合道路の路線や橋の設置場所について協議がまとまらず難航した時期があり、高速道路開通周辺事業としての実施が架け替えを促進した面もある。

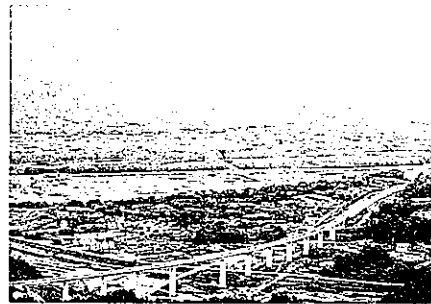
平成十三年一月、新しい橋の名前・色・親柱モチーフのデザインが三加茂町・三野町で公募された。三〇〇通にのぼる案が寄せられ、同年八月十日に角の浦潜水橋建設促進期成同盟会で選考の結果、名称は「角の浦大

橋」、色は「ベビーブルー」、親柱のモチーフは三野町側が「かんどり船」「桜」、三加茂町側が「鯉」「キジ」に決まった。応募採用者五十四名には賞状と記念品が贈られた。

※角の浦大橋は、平成十六年十一月十三日に開通した。

三 四国縦貫自動車道

四国縦貫自動車道(四国縦貫道、路線名は四国縦貫徳島自動車道)は徳島から三野町・川之江・川内・松山を経て愛媛県大洲市に至る延長二二三キロの高速度道路である。四国縦貫自動車道は四国を東西に貫いて徳島県と愛媛県を結び、S字状に南北を結ぶ四国横断自動車道とともに四国の大動脈となる。更にこの高速度道路網は鳴門で大鳴門橋、坂出で瀬戸大橋により本州と結び、四国と本州との一体化を促し、四国全体の発展に大きく寄与することが期待されている。徳島県内では吉野川沿いに東西に走る路線を置き、更に県境を抜けて愛媛県川之江市に達する、文字どおり県内を東西に貫く路線である。



河内谷川に架かる徳島自動車高架橋と角の浦大橋

四国縦貫道建設は日本道路公団高松建設局が全体の工事を担当した。建設にあたってはいくつかの工事区間を設け、各区に工事事務所をおいて実際の事業にあたる。

三野町にかかる区間はこのうちの第一次区間(美馬・三好・一七・九)で、東隣の第一〇次区間(脇・美馬・一・七)とあわせて脇町工事事務所の担当となった。第一次区間のうち、各町にかかる距離は美馬郡美馬町が四・一、三好郡三野町が七・五、三好町が六・三であり、三野・三好間は太刀野トンネルの建

設を要した。

(一) 工事の経過

四国縦貫道は昭和四十六年(一九七二)六月八日に基本計画が決定した。三野町域は工事区間の区分で第一区間(美馬郡美馬町東原・三好郡三好町登間 一七・九)となった。道路の設計速度は八〇、車線数は暫定二車線とされた。脇町工事事務所が担当する第一〇・一区間には、脇町と美馬町にインターチェンジ及び三好サービスエリア、阿波パーキングエリアを設ける計画となった。工事区間基本計画決定後の経過は以下のとおりである。

昭和四十六年 六月 八日 基本計画決定
四十八年 二月 一日 日本道路公団高松工事事務所を設置、調査開始
五十八年 七月 一日 日本道路公団高松建設局が発足
六十三年 七月 一日 脇町工事事務所を設置
平成 元年 一月三十一日 整備計画決定
二年十一月 十九日 施行命令
十二月二十六日 実施計画認可
三年 一月二十一日 路線発表
四月 十二日 美馬・池田間の中心杭打ち式挙行
四月 十三日 設計協議開始
九月二十八日 美馬・三野間設計協議完了
十月 一日 太刀野トンネル東工事開始(三野町側の着工は九月三十日)

七年十二月 三野町内の全区間で工事発注完了
十年 四月二十七日 太刀野トンネル坑内で貫通式挙行
十一年 三月 三十日 美馬インターから井川池田インター間開通

(二) 太刀野トンネル工事

太刀野トンネルは脇町工事事務所担当区域(第一〇・一区間)唯一のトンネルである。このトンネルの地質は西南日本内帯と西南日本外帯とを



太刀野トンネル東入口

分ける中央構造線に接しており、また吉野川北岸に沿った中央構造線とその北側に並行して走る光泉寺断層との間に位置するため、活断層の影響を受けた大小の断層破砕帯が七か所、トンネルの軸線を横断している。また活断層の影響で全体的に岩質がもろくなっている。

(三) 三野町の対応

この工事は、名称を徳島自動車道太刀野トンネル東工事といい、前述した一五・二五のトンネルと前後の道路延長四〇八、橋梁延長三三三を含め、総延長一九六五の建設工事であった。崩落性の地山に対する工事であるため坑内が大きな偏圧を受ける。また坑口付近に集落があることや、北岸用水管路と交差するなど、慎重な作業の進行を要したという。着工から貫通まで二年七か月を要した。

昭和六十年(一九八五)の三月定例会で、町の懸案だった工場誘致に係して四国縦貫道に対する町の姿勢が語られている。当時工場誘致にはジェット化空港から一時間以内の距離的条件という制約があるとの伝聞があり、その伝聞が議会に紹介されると道路網、特に高速度が整備されないこと誘致の候補地にあがれないのではないかと懸念が生じた。四国縦貫道の脇・池田間はまだ計画路線のままなので、町議会では整備路線への格上げと早期着工を目的に結成された期成同盟会を軸に、国・県へ強力に陳情する方向で検討することを決めた。昭和六三年六月定例会では、町長が環境影響調査準備書の説明会について発言している。この前後、国会で明石大橋架橋にむけて予算請求が行われたことなど町議会では高速度整備に関する期待をこめた発言がみられる。

三野町史

町では平成四年四月一日に縦貫自動車道対策室を設け、事業推進にあたらせた。平成三年（一九九一）六月に美馬・池田間の中心杭打ち式が三野町芝生で行われた。これを報じる『青年団報』（九一年八月 三二号）で町長は、現在取組み中の野菜団地づくりとあわせ、将来は三野町産のナス・キュウリ・トマトなどが高速道を通じて阪神市場により多く出荷されるところの予測を伝えている。平成六年（一九九四）九月には町長から議会に、縦貫自動車道の用地取得の状況は約八割ぐらい地権者との調印が終わり後の一割は相続や墓地の関係があるので実質九割はできていると思う、と伝えられた。また四国縦貫自動車道対策事業費として補正予算八九九〇万円が計上された。翌七年三月には用地取得が九割完了し工事の一部発注され、年末までに町内全區間で工事発注が完了した。

工事の順調な発足をうけ、平成八年（一九九六）六月一日付けをもって、町役場の縦貫自動車道対策室が廃止されている。また四国縦貫道の開通にともなう付帯工事として、路線敷にかかる防火水槽の変更や水道管の付替え、町道の路線変更などが継続して行われた。同年九月には道路開通に関連して住宅が以前の倍の一〇〇棟近く新築されていることが税務課から報告されている。平成九年度には四国縦貫道対策事業費の計上額が二億四八〇〇万円に達している。平成十年（一九九八）四月二十七日、太刀野トンネルが貫通し、記念式典が行われた。貫通記念イベントとして日本道路公団主催の「太刀野トンネル歩こう会」が六月二十一日に行われ、多くの町民が参加した。十一年三月の開通を前に、十年の十一月二十八日、神戸・鳴門ルート全通記念イベントとして美馬・井川池田間開通記念植樹祭が行われた。「ふるさとの木による森づくり」を主旨に日本道路公団・徳島県・エコロジーの森を創る会と三野町が共催し、小中学生をはじめ一般から二〇〇人が参加して、加茂野宮・紅葉温泉前の自動車道南側斜面に苗木を植えた。

平成十一年三月三十日に徳島自動車道（縦貫道）の美馬インターから井川池田インター間が開通し、式典のあと午後三時から一般供用が始まった。開通祝賀式には日本道路公団四国支社長、徳島県知事、県議会議長、美馬町長、三野町長、三好町長、井川町長が列席した。なお、翌平成十二年三月十一日に徳島自動車道が全線開通し、池田町や三好町で記念行事が行われていた。

行われている。この徳島自動車道全通により四国の各県の県庁所在地が高速道路網で一つに連絡されることになった。この全通にあわせ、四国運輸局は徳島バス・JR四国・伊予鉄道の三社共同で申請していた高速バス「徳島―松山線」の路線免許を認可した。「吉野川エキスポレス」の愛称を持つこの高速バスは道路開通の翌日から一日四往復運行されている。

（四）町営住宅

三野町の公営住宅は、昭和二十九年、芝生の辻高校三野分校の北側に五戸建てられた木造平屋建てのものが最初の町営住宅であり、その後昭和三十年代後半からは農業情勢の転換期に当たり、兼業農家が増え、町内や近隣の町に就職する人が多くなった。また山間部の人たちは子供の通学の便も考え、芝生や東川原など通勤や通学に便利なところに移住するようになってきた。

しかし民間のアパートもなく、公営の住宅を求める声が高くなり、町は三十九年から町営住宅の建設にとりかかった。

町営住宅建設の経過

年度	建設地名	戸数	構造
昭和二十九年	辻高三野分校北側	五戸	木造平屋一戸建（瓦葺）
三十九年	〃 南（芝生中団地南）	二〇戸	簡易耐火構造平屋一戸建
四一年	河内谷堤防沿（南団地北）	一五戸	〃
四二年	〃 南団地南	一五戸	〃
四三年	〃 中団地北	五戸	医師等官庁
四五年	〃 北団地北	一〇戸	〃
四六年	〃 北団地中	一〇戸	簡易耐火構造二階建て
四七年	〃 北団地北	一〇戸	〃
四八年	保育所裏（北団地東）	一〇戸	〃
四九年	〃（東団地北）	一五戸	〃
五〇年	〃（東団地南）	一〇戸	〃
五四年	〃（第二北団地）	二四戸	中層耐火構造三階建て
※芝生地区合計		一四四戸	
昭和五十六年	農協北側（花園団地）	一二戸	中層耐火構造三階建て

特集二 町民悲願の築堤工事、半ば完成

三野町の南の地先を東流する四国三郎吉野川は、町民に多くの恩恵を与える一方で大洪水による甚大な被害を齎らす元凶であり、太古の昔よりこの洪水を治水し安心して農耕に従事したいということは先祖代々からの長年の悲願であった。

吉野川を治水する根本的な対策が両岸に堤防を築く以外にないことは早くから分かっていたが、町村の独力ではどうすることも出来ない問題であり、国や県、特に国の治水政策に全てはかかっていた。

ところが、巨額の予算を要する築堤工事に対し、国は容易には動かない。地方でできる対策、それは吉野川の両岸に竹林を移植することであった。徳島藩は早くから竹林移植を奨励、三野町でも文化文政時代に早くも竹やぶ奉行として宮田氏が配置され、三庄公民館の内庭にある記念碑によれば三加茂町中庄地区では、明治三十四年水防竹林移植事業を実施し、大正初期にはその成果が現れ、出水はやむを得ないものとして、流木による被害や激流による田畑の流失を最小限に防いだ。

この竹林移植事業は美馬郡地域でも徳島藩の奨励に促されて早くから実施され、本町でも順次移植が進み、脇町から池田までの吉野川の両岸に「真竹」の竹林地帯が形成された。この竹林は洪水対策は勿論であるが、土佐からの洪水利用の流木輸送をキャッチする竹林となり、係留保障費を稼いだり、竹の子をはじめ建築用竹材として出荷され、昭和三十年前半までは高価に販売されることもあって、所有者にとっては臨時収入として貴重がられていた。

吉野川の洪水は、地元の集中豪雨や台風による洪水ばかりではなく、土佐地方の豪雨によっても発生する洪水であったから毎年九月の二十日前後には大洪水に見舞われ、太刀野地区や勢力地区、加茂野宮地区、清水地区の稲作地帯や加茂野宮や清水の島地区の広大な桑園は濁流に呑まれ、甚大な損害を受けていた。町民はそれでも「この地域は吉野川の遊水地帯なので仕方がない、天災だ」と言っただけで、我が運命を嘆くのみであった。ところが、昭和四十年、新河川法が施行されて吉野川が一級河川とな

り、国の直轄河川となったために昭和四十二年、国は高知県本山町に計画していた早明浦ダムの本体工事に着手、続いて池田町に香川用水分水用及び北岸用水用の調整池田ダム建設に着手する一方、岩津地点から池田までの築堤による直轄治水事業に着手し、舞中島の用地買収を始めたのである。

昭和四十八年十一月、吉野川の上流本山町に早明浦ダムが竣工し、続いて昭和四十九年六月池田ダムが完成したために、台風による大洪水はほとんどなくなったのである。

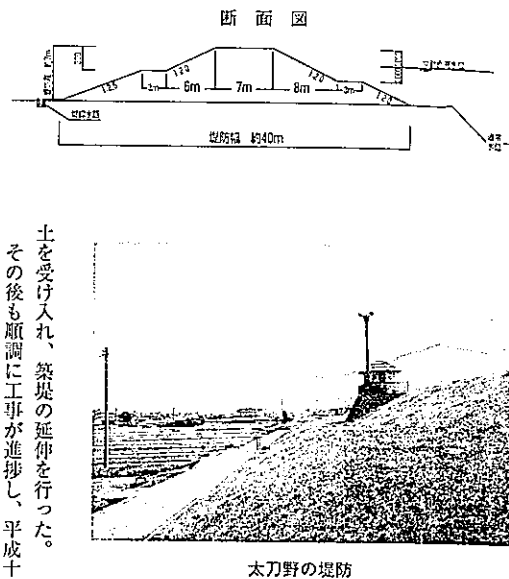
築堤事業は、国の直轄事業として美馬郡から順次進行し、昭和六十一年美馬町(美馬市)の中島島の用地買収に着手して、美馬地方の築堤を完了、昭和六十二年三野・三加茂地区に至り、まず太刀野地区の西岡神社南から下流の堤防用地買収が開始された。堤防工事は、南と北の両岸の同時並行工事を原則とするため三野町側優先というわけには行かないのだが、思うに竹重義博町長の熱心な陳情や歴代議会議員等の尽力と本町芝生出身の馬場さんのご主人吉岡和徳国土交通省四国地方整備局長(当時)のご高配によって工事は極めて順調に進められた。

以下、四国地方整備局徳島河川国道事務所の経過記述に従うこととする。

一 太刀野地区の築堤工事 (総事業費約四〇億円)

太刀野地区は、三野町太刀野地区の平野部を吉野川本川の洪水氾濫から防御するために、築堤延長し約二五〇〇m、樋門N四基で実施する河川改修事業である。

昭和六十三年度から、上流側より用地買収に着手し、平成十一年度用地買収を完了。築堤工事は、用地買収の進捗に合わせて平成三年度から水路工事を先行着手し、平成四年度には上流端の特殊堤箇所の工事を実施し、続けて孫十郎谷樋門の施工を実施した。その後は、吉野川の他の箇所との事業バランスを考慮しながら、事業進捗を調整していたが、平成十年度に四国縦貫道三野工区における工事において、日本道路公団より残土受け入れの要請があったため、残土の有効利用及びコスト縮減の観点より残



太刀野の堤防

土を受け入れ、築堤の延伸を行った。

その後も順調に工事が進捗し、平成十四年度末現在では築堤約L二三〇〇m、樋門N四基が完成し、下流端の約L二二〇〇mを残すのみとなっている。

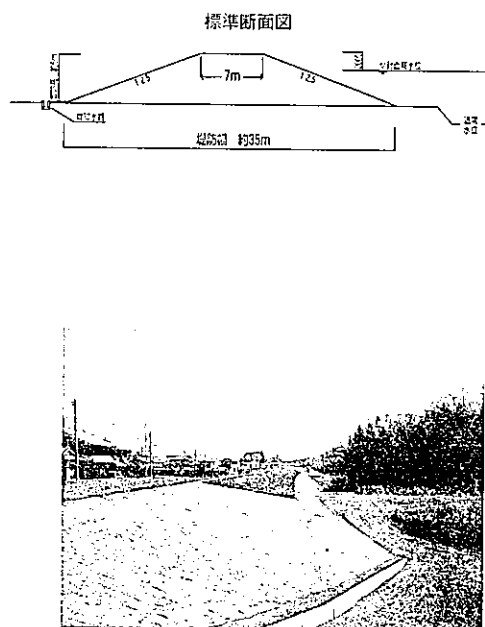
今後は、対岸の加茂第一箇所(三加茂町)及び下流の芝生箇所(三野町)の締切り工程にあわせて締切を実施することとなっている。

二 芝生・加茂野宮地区の築堤工事 (総事業費約一五〇億円の見込み)

芝生箇所は、三野町芝生地先と加茂野宮地区の平野部を吉野川本川の洪水氾濫から防御するため、築堤延長約L二九〇〇m、樋門N五基で実施する河川改修工事である。

平成十二年度から上流側より用地買収に着手し、平成十六年度には、三好木材センター付近までの買収が進んでいる(一部未買収あり)。

築堤工事は、平成十三年度から上流側の水路工事に着手し、平成十四年度には築堤工事に着手した。築堤用土は主として町民体育館の裏山から採



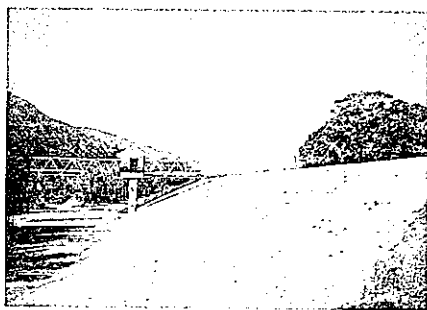
中学校の運動場下から東三好橋への築堤

取し、平成十六年度末現在で三野

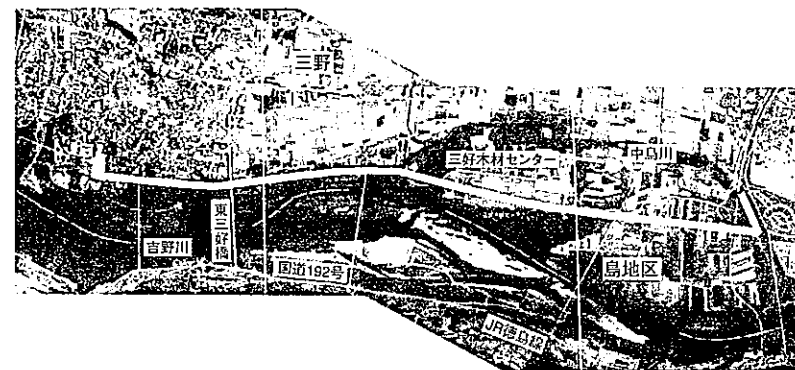
中学校から東三好橋までの間については暫定締切が完了し、東三好橋から中島川合流点までについて、用地未買収地付近を除いては築堤が完了しているのである。

今後は、加茂野宮地区の三好木材センターより下流から美馬町(美馬市)境の高瀬谷の河口までの用地買収を進め、早期締切完了を目指し、事業進捗を図ることとしている。

三 効果



勢力神社前から東三好橋への堤防



三野中学校の運動場東下から美馬町（美馬市）への堤防予定ルート（白線）

平成十六年七月三十一日の台風一〇号、八月三十日の台風一二号は昭和二十九年九月十四日の台風一二号による大洪水（岩津地点で一万五〇〇立方メートル／秒）や昭和四十九年九月九日の台風一八号の大洪水（岩津地点で一万四四七〇立方メートル／秒）に並ぶ最近では希有な一万二〇〇〇立方メートル／秒を記録し、無堤防時代には甚大な被害に襲われていたはずの太刀野地区は内水被害があった程度で被害は極小に終わり、築堤の威力に驚嘆感謝する。

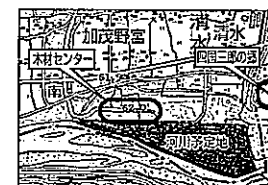
芝生地区や勢力地区は、築堤中のために勢力神社近辺で床上まで浸水し、まだ未着工の加茂野宮地区では、下加茂神社周辺や里地区一帯で一時的避難勧告が発令され、清水地区では島地区はじめ大川組の周辺が一面に水没、早生品種の稲刈り直後であったため稲束が水没する等の被害が発生し

吉野川北岸(加茂野宮・清水)河川予定地に指定!! 掘削等の地形の変更の行為はご注意を!!

平成17年1月21日付けで吉野川北岸の下図の場所（三野町清水地内および加茂野宮地内）が、河川予定地に指定されました。

1. 土地の掘削、盛土または切土その他土地の形状を変更する行為
2. 工作物（建物および出入道等）の新築または改築

などの行為をする場合には、河川管理者（国）の許可が必要となりました。行為の内容によっては、許可できない場合もありますので、お手数ですが事前にご相談いただきますよう、ご協力よろしくお願いいたします。



国土交通省徳島河川国道事務所 吉野川美馬出張所
河川占用調整課

た。早明浦ダムが完成した昭和四十八年十一月以来長期間にわたって洪水の恐怖から開放されていた関係から消防自動車の出動も加わって水没家屋周辺の住民は大騒ぎとなり、また、三加茂町中庄地区から誘致した三好木材団地が浸水し、貯木場の木材が流出して、付近のいちごハウス等を全滅させるといって甚大な被害が発生し、関係者は早期の堤防完成を願った。

現在は、勢力地区の築堤工事が一部を除いて完成、加茂野宮地区にある島地区の木材団地南一帯で用地の買収が始まっている。美馬町（美馬市）の境界までの全面完成を目指して鋭意取り組み中で、一日も早い堤防の完全締め切りという全面完成が待たれる。